

熊本透析医会施設協議会の活動報告及び透析にまつわるエッセイ

上村才司

熊本県の日本透析医会会員は20数名で、県透析施設の約半数程度です。それ故、県透析医会として特に活動は行っていません。世話役も、熊本県透析施設協議会会長が兼ねているところです。今後 全員が日本透析医会に入会し、支部として一本化出来ることを期待しています。今回は、熊本県透析施設協議会の活動状況について報告致します。

◎透析（新人）スタッフ教育勉強会（Ⅰ）（Ⅱ）

（Ⅰ）基礎編 4月（日曜日）

（Ⅱ）臨床編 5月（日曜日）

会員医師の持ち廻りで講義を受け持つ。

一昨年から始まり、今年は3回目で今回は看護と透析食について施設の婦長及び栄養士の講義を加えた。

◎透析医師勉強会（6月）

専門講師の講義による勉強会。

今年は今話題の「C型肝炎」についての勉強、今後透析患者の肝炎に如何に対処して行くか大きな問題である。

◎透析施設協議会主催講演会（9月）

透析医師、スタッフを対象に専門講師の講演。

◎角膜、腎バンク協会活動参与

協会設立、寄付キャンペーンその他

◎腎友会健康フェスティバル、県健康展等の参加、県内地区別グループ勉強会等。

大約以上が年間の行事となっています。

その他、原稿依頼がエッセイ等となっており、当院の朝のラジオ体操について御報告致します。

近年、透析患者の長期化、高齢化が進み要介護の問題が大きく取り上げられ始めています。私の施設では、開業当初より卓球場を備え、室内及び野外運動を進めて来ましたが、20年を経過し患者もスタッフも高齢化し、運動もままならなくなって参りました。

体力（筋力及び骨）維持、平衡感覚維持による転倒骨折予防、その他生活圏におけるQOLを考えると運動は特に透析患者にとって、透析療法と同様に必須なものと考えます。

そこで当院では、3年前より朝透析開始前（AM8:20～8:30）の10分間を、ラジオ体操の時間に当てました。自分自身の体力に応じた体動で、体操をしている間に徐々に体動がよくなり、体力充進が見られます。

患者よりスタッフの方が体調、気分がよくなり、仕事のスタートが順調になり喜ばれています。今では当院では、朝のラジオ体操は当然のように行われています。

当院の患者数は90数名ですが、透析20年以上の患者4名をはじめ長期透析患者が多いのですが、現在下肢切断等の患者を含め介護者は数名です。朝10分間のラジオ体操は、私自信のためにも続けて行くつもりです。